

2025年度 国際漁業学会大会個別報告プログラム

8月31日(日)

※報告時間は17分、質疑応答は8分です。

第1会場(33番講義室)		
時間	座長	タイトル・報告者
09:00 09:25	小川健 (専修大学)	1-1. 環境・経済的要因の変化がサンマ棒受網漁船の操業行動に及ぼす影響 岸本将光(東京海洋大学)
09:25 09:50		1-2. 空間構造を考慮した漁獲枠配分が資源に与える影響 岩田繁英(東京海洋大学)
09:50 10:15	松井隆宏 (東京海洋大学)	1-3. 未利用魚を原料とした水産缶詰の消費者評価と情報提供の効果 神山龍太郎(水産研究・教育機構)他
10:15 10:40		1-4. 太平洋クロマグロ資源管理政策の展開と管理制度の変化 村井彩子(東京海洋大学)他
10:40 10:50	休憩	
10:50 11:15	山下東子 (大東文化大学)	1-5. 2021年から2025年前半の北西太平洋における外国漁船の動向について 高崎健二(水産研究・教育機構)
11:15 11:40		1-6. (仮)開発途上国における漁獲データソースとしてのFacebook 高山琢馬(公益財団法人海外漁業協力財団)
11:40 12:05		1-7. タイのFMO等における海業の取組みについて 佐藤昭人((株)不動テトラ)
12:05 13:05	昼休み	
13:05 13:30	神山龍太郎 (水産研究・教育機構)	1-8. The impact of the Fukushima nuclear accident on Japan's seafood market 徐楊露易(東京海洋大学)
13:30 13:55		1-9. The relationship between education level and willingness to pay for certified salmon focusing on mediating factors 禹環善(東京海洋大学)
13:55 14:20	若松宏樹 (農林水産政策研究所)	1-10. 産地競争力の形成と養殖産地の組織対応－東町地域を事例として－ 林琦(東京海洋大学)他
14:20 14:45		1-11. 漁村観光事業の効果評価－日間賀島を例として 廖凱(東京海洋大学)他

※報告時間は17分、質疑応答は8分です。

第2会場(35番講義室)		
時間	座長	タイトル・報告者
09:00 09:25	なし	
09:25 09:50	日高健 (近畿大学名誉教授)	2-2. 海を畑に！新漁場を作る 田内雄司
09:50 10:15		2-3. 水産業福祉連携の取組みに関する一考察 田中颯介(東海大学)他
10:15 10:40		2-4. 協業化による海業の取組みについて－神戸市・すまうら水産－ 李銀姫(東海大学)他
10:40 10:50	休憩	
10:50 11:15	李銀姫 (東海大学)	2-5. 恩納村における海業と里海の取組みと連結の可能性 日高健(近畿大学名誉教授)他
11:15 11:40		2-6. 水産物のブランド化と水産資源との関係－兵庫県「松葉ガニ(ズワイガニ)」の取組を事例として－ 山下正晶(兵庫県立農林水産技術総合センター)他
11:40 12:05		2-7. An analysis of the diversification and spatial expansion of satoumi-related activities: A case study of Hinase, Okayama 立花佐和子(アイ・シー・ネット株式会社)他
12:05 13:05	昼休み	
13:05 13:30	高橋周 (東京海洋大学)	2-8. 終戦直後期における水産企業の経営展開－南水洋捕鯨事業の事例－ 湯浅俊介(立教大学)
13:30 13:55	宮田勉 (水産研究・教育機構)	2-9. 生鮮水産物ECにおける市場細分化とその特徴 オ サンジュン(東京海洋大学)他
13:55 14:20		2-10. 改正漁業法下における新たな資源管理の推進に関する政策過程分析 松村俊吾(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)
14:20 14:45		2-11. 岩手県における漁協自営定置網漁業の生産性評価と経営指導体制の構築 及川光(岩手県水産技術センター)